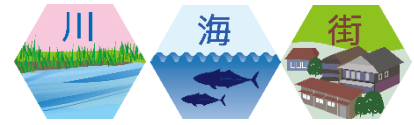


山王網一色地区



【地区の自然環境概要】

山王網一色地区は、川、海及び街の要素を持つ地区です。

小田原駅から約 1.5～2km 東に位置する住宅街で、東に酒匂川、西に山王川、南に相模湾があり、水辺環境へのアクセスが良い地区です。住宅街周辺は、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。

南側で約 1km にわたり相模湾に面する海岸は、自然の砂浜海岸が残っており、海浜を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、広大な海は魚類等の動植物の生育・生息の場となっています。

東側は酒匂川が流れ、河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

市街地の中にある緑は動植物にとっての大切な生育・生息の場です。また、河川や海岸は水辺環境を利用する動植物の生育・生息の場となっており、特に酒匂川河口部はコアジサシの営巣の場として利用されるなど、大切に守っていききたい環境です。

- 市街地の神社・寺院では、アオダイショウやシロマダラ等の爬虫類が多く確認され¹、ツバメやスズメ、ウグイス等の鳥類やニホンヤモリ等の爬虫類など、市街地から里地里山にかけてよく見ることのできる身近な種が確認されています。²
- 酒匂川下流部には河川敷が広がり、カワヤナギやヨシ等の植物が生育しています。カワウやダイサギ、コチドリ、カワセミ等の水鳥、ニホンスッポン等の爬虫類、ハグロトンボ等の昆虫類などが見られ、水辺環境を特徴づける種が生息しています。礫河原では、市の鳥であるコアジサシ（絶滅危惧種）が営巣しています。³魚類では、ウグイやテングヨウジ等の河川中下流域や河口近くでよく見られる種のほか、海水魚であるボラやスズキ、シマイサキ等も生息しています。⁴
- 海岸にはハマダイコンやハマボウフウ、ハマヒルガオ等の海浜植物が生育できる砂浜が残っており、カンムリカイツブリやダイゼン等の鳥類、ヨツボシホソアリモドキ等の昆虫類などが見られ、海岸を特徴づける種が生息しています。⁵また、平成 29 年（2017 年）には、アカウミガメ（絶滅危惧種）の上陸も確認されています。⁶

¹ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

² 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

³ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁴ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁵ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁶ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果



シロマダラ

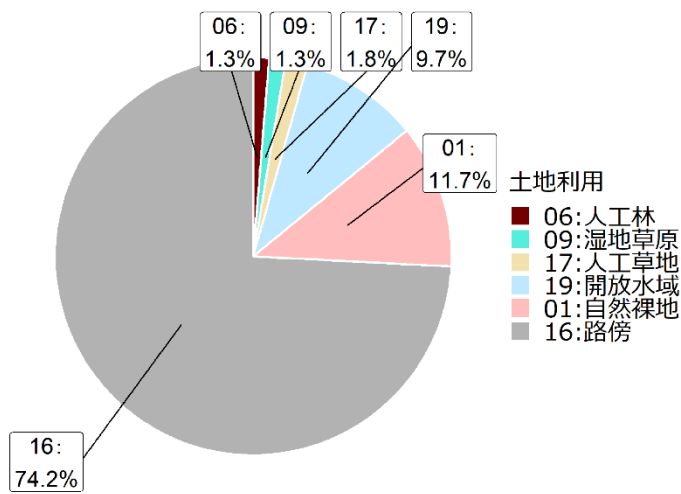


カワセミ

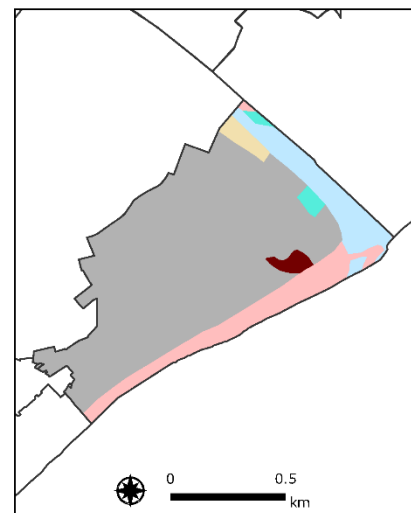


テングヨウジ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、路傍が約 7 割を占めますが、南側で相模湾に面する海岸部は自然裸地に分類され、沿岸の一部では人工林が見られます。また、酒匂川周辺は、開放水域や人工草地、湿地草原などの水辺環境が見られ、土地利用の約 1 割を占めています。⁷



山王網一色地区の土地利用割合



山王網一色地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、防災など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：南側で相模湾に面する海岸では、伊豆半島や三浦・房総半島を見渡しながら海辺の散策が楽しめる他、サーフィンや釣り場としても利用され、レクリエーションの場として活用されています。一方で、海岸侵食や砂浜の減少による美しい海岸線の保全が課題となっています。
- **スポーツの場**：本地区の東側に位置する酒匂川河川敷は、「酒匂川スポーツ広場」として、軟式野球やサッカー、ゲートボール等のスポーツを楽しむことのできるレクリエーションの場として活用されています。また、小田原酒匂川花火大会では、河川敷が観覧席となり、夏の夜空を彩る美しい花火を楽しむことができます。
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「山王神社」の例大祭で唄われる山王原大漁木遣唄は、無形民俗文化財（市指定 平成 18 年（2006 年）12 月 27 日）に指定されています。

⁷ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

◆「山王神社」

旧山王原村の鎮守で、地元では「山王さん」と呼ばれ親しまれています。例大祭では、交通事情等諸問題により神輿は担がれなくなりましたが、宮入や「北條五代まつり」のパレードでは担ぐ姿を見ることができます。特徴は木遣を掛けて突っ込む形で、この木遣唄を山王地区では民族芸能として長く伝承保存できるようにと「山王原大漁木遣唄保存会」を発足し活動しています。⁸

～生活環境とのつながり～

- **防災・減災**：国道1号線沿いの海岸線の一部には松並木が残っています。海岸線沿いの松並木は、海岸沿いの街並みを作るとともに、一般的に防砂・防潮の役割を持つと言われています。

【地区で見られる特徴的な自然】

鳥獣保護区や巨樹・巨木林に選定されている樹木など、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **鳥獣保護区**：「酒匂川」は、希少鳥獣生息地（環境省レッドリストまたは神奈川県レッドデータ生物調査報告書において絶滅危惧が高いランクにある鳥獣の生息地であって、これらの鳥獣の保護上必要な地域）として、鳥獣の捕獲を禁止し、その生息環境を適切に保全しようとする区域として、神奈川県鳥獣保護区に指定されています。
- **神奈川県生物多様性ホットスポット**：「酒匂川下流～河口」は、希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域として、神奈川県生物多様性ホットスポット（NPO 法人神奈川県自然保護協会選定）に選定されています。

神奈川県生物多様性ホットスポット選定理由

名称	選定理由
酒匂川下流～河口	希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域

※出典：かながわの自然 No.67（NPO 法人神奈川県自然保護協会、平成30年（2018年））

- **巨樹・巨木林**：「山王神社」に生育するイチヨウは、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査⁹で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

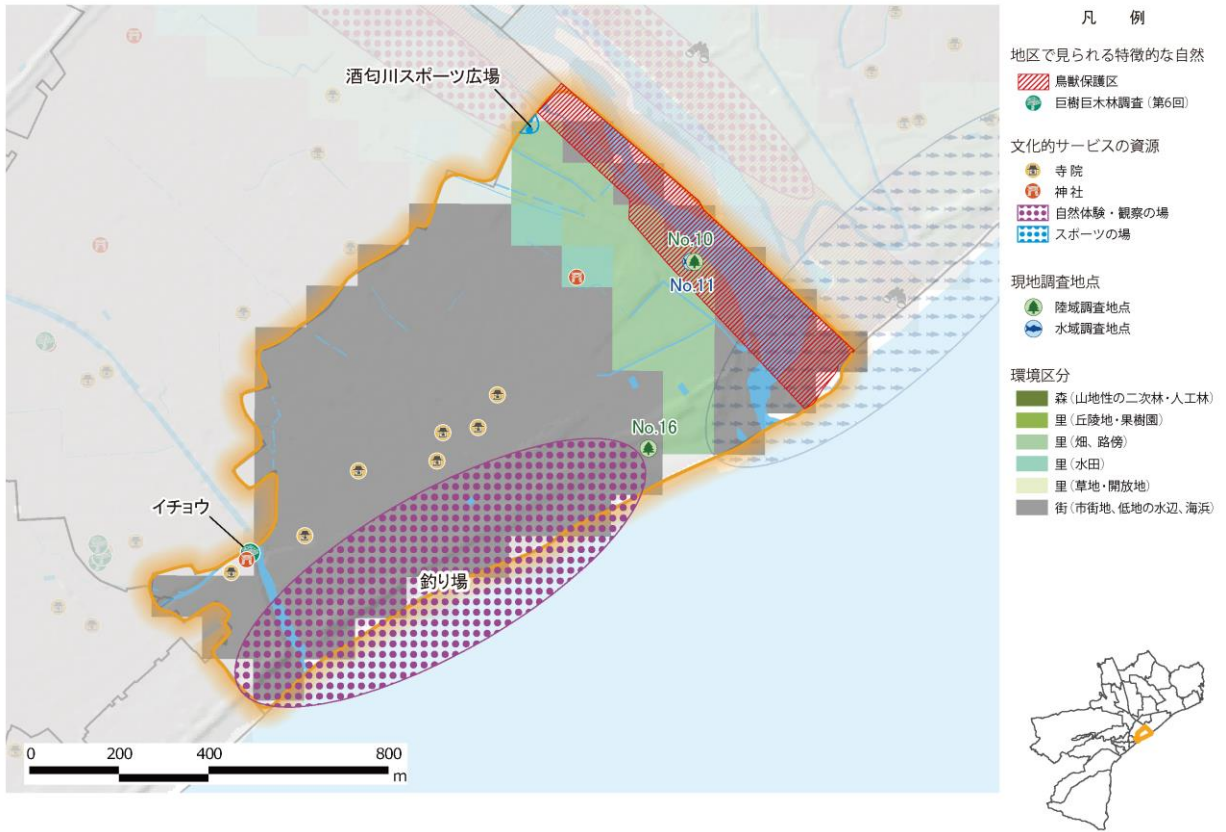
所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
山王神社	イチヨウ	17	310	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

- **重要地点**：平成29年（2017年）～30年（2018年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ重要種が多いと評価された現地調査地点「陸域 No.10（酒匂川河口部右岸）」、及び希少な海浜植生のある現地調査地点「陸域 No.16'（酒匂川河口部右岸の砂浜）」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。

⁸ 出典：小田原の祭り（小田原祭禮研究会、平成16年（2004年））をもとに作成

⁹ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査



山王網一色地区の自然環境マップ